

CASBEE-建築(新築)2014年版
福岡大学 工学部棟(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.40		-			3.5
1 音環境		3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.60	3.0	-			
2 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.7	0.25	-	-			3.7
3.1 昼光利用		4.0	0.30	-	-			
1 昼光率	昼光率 2.475%	4.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備	トップライトの採用	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策	西面には庇と日射抑制ルーバーを計画	4.0	0.30	-	-			
1 昼光制御	西面には庇と日射抑制ルーバーを計画	4.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度	主要室の照度を500lx以上で計画	4.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-			4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	全ての建材にF☆☆☆☆を採用	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.3	0.30	-	-			
1 換気量	居室換気量: 30m ³ /h・人以上となるように計画。	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	禁煙化	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.9
1 機能性		4.6	0.40	-	-			4.6
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たしている。	4.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	天井を貼らないことで広がりのある空間を確保	5.0	0.50	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画	それぞれの空間に応じた証明の採用	5.0	0.50	-	-			
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	汚れにくい材料	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	清掃のしやすさや汚れ防止のためにバルコニーを設ける	5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30	-	-			3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトをSUS製とし、特殊ガス系は塩ビ製ダクトを使用し、防錆性能を確保している。	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管SUS、排水管DVLP、消火管STPGを使用	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、配管の系統分け、汚水槽の設置	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1F:4.8m 2~6F:3.9m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.1755	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	外壁部分に立て管スペースを設け、更新性の向上を図る。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	機器の予備スペースとルートを設け、更新性の向上を図る。	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	公共歩廊や光庭を設置しキャンパスに寄与している。	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用		トップライトの採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.77 住宅(専有部) 0.83	4.6	0.50	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(3a.3b)		照明器具は全館LEDを採用し、省エネルギーを図っている。	4.6	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		節水型便器の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	便所洗浄水に中水を利用。	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		砕石や電炉材を採用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材の分別が容易	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤及びシーリング材に有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		CO2排出量を一般的建物と同等とする	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止		実験用排気系統にスクラバーを採用。	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	過去最大の降雨量から設計最大降雨量を算出し、排水計画を行う	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	